



崑陽雜記

附錄

下

四十二

服部文庫

117

1506

2

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60





以和解文通八九月廿一日通得各村多蒙  
書牘中云吳書一併收買六冊といふ別紙也

一ノ年

名け色す所より日かたうへ取り上り横文

字の和解

所名爲地言降臨前之礎を以て名づれす

所より里寄有河原院人ありせましといふ

所より所より名づる

一 名け色す中国如航江無柄也 宗廣 同前



甲子九月  
廿五日  
庚子八月  
廿五日

一 本 船 人 持 之 百 而 擲 人 於 地 而 去

一  
今收市當地後年江以故也連々之山色更け  
是す西へ海を市利し西へ山を地するも養民  
事う妨はれど地なる所廣くは故より此に地多  
能合ふ既年有阿蒙陀人其人謀斗荒野捕  
獲ハ通年爲るなり今

御國對一萬三  
千八百七十九  
年九月廿五日  
八月廿五日

[illegible]

大いけさす 船中口 阿蒙人あり  
世に 取入 函中 之 以



古之所謂  
父子兄弟  
夫婦者

辰  
八月十六日

茂傳之學  
加福壽祿  
乙福助丸  
中山水之  
名村多壽  
今村人全  
橫心福之

二ノ下

久げさす新編  
 中二和解

東へきく之は海をけさす西へ海を歌ふ  
 安ん良 市面地さきとく人好む人地を  
 以て知る事とてあくるも欲しきとて  
 其の如くして彼れを思ふ  
 其の如くして彼れを思ふ



誠の厚海に於て其の徳有は合ふ事ありて  
之故に其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて

おもはれし海に於て其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて

かみきん

海に於て其の徳有は合ふ事ありて

其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて  
其の徳有は合ふ事ありて

西冠  
連名



辰月

三下

急げさす所  
筆有阿蒙陀人  
大正八揚  
良く成す所  
和解

第百有阿摩陀人妻人相形以之以上之要否んす能  
 之族地之持の毛人へ胸へ押南阿摩陀亦二艘耳清し  
 拙子お花より舟入津迄は夜お花より更燭亦二艘は族  
 地石火矢よりお花へ是艘に中へり皆能の毛亦渡りて

繫りし所は有るに記し、其の邊に漕入する所あり  
漕船一由旦又かひて之より何處へ来り、あやふしとお  
思ひし者病氣を収むる所なり。又舟船へ乗組人共ハ  
三百五十人と有りし。

大に夢者ぬ人ふげきす  
 船江瑞の良彼  
 方よりやぬぬに扱ひりかゝ候八月十番右  
 うせうん上陸はりとお難り也大に趣アおれ有  
 手前西河元、拙候はれ次、其方、其の事、之れ

かひきん







新又かひ之由迄死しそゆを元返り交寄る  
 之をもとめ候ハ 少き所なり 中絶死にそハ  
 中絶は成おぬかしも腹中より受胎ともハ酒食  
 ちと振ふ可い候に為しそえ胎衣上墮落しん  
 尸骨あり候ニ返却ある由たよりあましく乳中の乳を  
 足指の中指合よりお漏れにもお漏れなり、此後瑞  
 きく際まで皆く送りお終へ別色也命 新又送  
 りて乳謝五息や所よりと胎衣も胎中よりおれ  
 ひり取まりて酒二つすこ并こつ子一ツ卵ニヒス

コイト

麦粉にて製し以食物として用はす

去也莫送

吳昌碩

ぢくろせえ

卷之四

げらつとちえい

大正五年  
五月廿七日

切心

大正横文字書  
和解仁義堂



通人

市改新、萬壽何常能人共之否也。此等事之凡

出於己之利解。

今日 少行所く、言ふ歌、亦、其、人、

一  
八月十日吳西船滿其之民族合之之之之

西人必知此言之所來也  
抑子予乎

[illegible]



諸うそおきりて民服もあはれ候へり  
内へ申船より瑞雲とある一船も出候  
り船へ漕舟より舟みへおきりてあはれ候  
りて嘆息はせりとおきりてあはれ候  
り候へり申船へあはれ候りてあはれ候  
一日てあはれ候りてあはれ候りてあはれ候  
る声なるりてあはれ候りてあはれ候  
を候き人へ候りてあはれ候りてあはれ候

柳へりてあはれ候りてあはれ候りてあはれ候

一申船よりあはれ候りてあはれ候りてあはれ候

船よりあはれ候りてあはれ候りてあはれ候  
船よりあはれ候りてあはれ候りてあはれ候  
りてあはれ候りてあはれ候りてあはれ候  
りてあはれ候りてあはれ候りてあはれ候

一申船よりあはれ候りてあはれ候りてあはれ候

あはれ候りてあはれ候りてあはれ候りてあはれ候  
あはれ候りてあはれ候りてあはれ候りてあはれ候











同日二海舟展覧

舟ありし所々降よる者ありし所々舟にお登りし  
御意に足敷ありし所々又乗船し乗るも船内  
まはる所細く説く人々もまはる所あり  
ゆゑ六舟細くはし

一  
そふも元来一の為に據使船中船に漕舟は  
元よりありし大據使船中元よりそ彼是とも  
と中より據使船中永く據り居るは元より一  
百ありし元より元よりとせましとせまし

ゆゑ大の舟は、据ありし大の舟は

そふも據使船中元より漕舟は元より船中  
知はし、据ありし船中永く據り居るは元より一  
據りし者より水よりそ人々据り據使船中  
据りし者より據使船中元より船中元より  
船中元より據使船中元より船中元より  
船中元より據使船中元より船中元より  
船中元より據使船中元より船中元より  
船中元より據使船中元より船中元より



[illegible]

日中一毎六市新地をあらひれり  
 中阿比細又獲便ありと一毎六市  
 以給六何とと中代取知あり

一 步國之類一 聊以敬告此所為之 詩入 卷中

古之遊船至今  
私免之  
中安山  
海  
出產

一  
陽ありて溪内を急とす  
船先船入津に有江と  
最り此大堀ありて溪内  
船より入る



端身致禮に地無おれ侍に渡田に参り入向  
當院あり月夜お尋り候へ船中知照し  
自身も宗祖子親しく申すにわが宗祖  
尊ハ祖より終るに是れなり及ひあらず  
一 端身中人に侍り終る人海客も侍りしに候  
と候ふなり

たゞ色中ありあへく形に候え及ひ  
おはに

一 五言にす終る終る自らより是よりあへん

宗祖居あり

是よりあへん終るなり

一 一より大に中なりと申す 水新より中より  
と候ふなり人々候へくや中より候へくや  
中より候へくやと候へくやと候へくや  
中より候へくやと候へくやと候へくや  
西国より候へくやと候へくやと候へくや  
一 大なるなりと申すなりと申すなり  
おひえにいと申すなりと申すなり



あゝ

多る氏

ふくむやう

多る

あゝと云ふ

たゞ一人の事や云ふ事あるやう

あゝ

あゝと云ふ

たゞ横文字の解は云ふ

茂徳の

石橋ゆれ

中山の

名村多る

今

所は横文字の解は云ふ

横文字の解

今日所は横文字の解は云ふ

たゞ

一、たゞ横文字の解は云ふ



阿蒙陀人お人布船に揚子江舟先助安留吧什部  
と申之後は急げと申す西へ申す申す成金くそ  
と申す西へ申す所 此大船高貴船又減船  
先軍船おどろく申す所

阿蒙陀族を逮受留吧什部一の船と申す  
申す申す金くそと申す所 此大船高貴船又減船  
先軍船おどろく申す所

一 大に彼を大船に小船に留め之艘渡り  
此より擧を申す進退自在 此を彼を申す

船を二船に大船に小船に

大船長サ二十百程有り 阿蒙陀語を  
フシガツトシキツフと申す 此軍船と申す  
一 此軍船に大船を阿蒙陀語を  
リイニイシキツフと申す 此サ二十六七百  
程有り 此大船六十挺以上と申す 此中  
且又揚子江を擧を申す進退自在 此  
中船を申す 此中船を申す 阿蒙陀語を  
申す 此中船を申す



一 船歌人おし抄ふるも海をけきす船と所  
船の形見え八尺窓めわくくとも人おはるげ  
きす人えきと石火矢にきけきすきき  
名記しきしきききききききききき  
ききききき

一 阿常院日本海海にききききききききき  
阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所  
阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所  
阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所

一 阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所  
阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所  
阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所  
阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所

一 阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所  
阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所  
阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所  
阿常院おし抄ふるも海をけきす船と所



西舟より船中より船に能く〜新  
水に耕せしむるも〜早に水  
富に事なり

一 大和是より日中〜地方色く西船より人安に及び  
ゆへにす〜

是より人及びゆへに西船より人安に及び

日本延宝元年日高れ

山崎清〜海軍にゆへに水及びゆへに

一 大和三百中人〜船中〜ゆへに西船より人安に及び

船中〜ゆへに西船より人安に及び

船中〜ゆへに西船より人安に及び

船中〜ゆへに西船より人安に及び

船中〜ゆへに西船より人安に及び

一 船中〜ゆへに西船より人安に及び

船中〜ゆへに西船より人安に及び

船中〜ゆへに西船より人安に及び

船中〜ゆへに西船より人安に及び

船中〜ゆへに西船より人安に及び



事は二事あり

一 大形中を筆看何事凡人何れも好むべきは

いふ初稿は録しと取り次ぎて了す  
五人の者清和申に神田島前より外西要害  
の場所も有し乙大矢より武蔵小岩まで  
おぼろしくと外渡りするも可なり

おぼろしくと大場前より武蔵小岩まで  
おぼろしくと大場前より武蔵小岩まで  
おぼろしくと大場前より武蔵小岩まで  
おぼろしくと大場前より武蔵小岩まで

その事なり

大い解くとも方々おぼろしくと大場前より武蔵小岩まで  
いふ事いふ事ありとありともいふ事いふ事あり  
いふ事いふ事ありとありともいふ事いふ事あり  
いふ事いふ事ありとありともいふ事いふ事あり  
いふ事いふ事ありとありともいふ事いふ事あり

おぼろしく

大い解くとも方々おぼろしくと大場前より武蔵小岩まで

おぼろしく







浦邊邊と浦と 紅毛人とも子被  
一 紅毛人とも子被と紅毛人とも月被る  
能く見たりともともとも捕りて紅毛人とも受  
定段一 紅毛人とも子被と紅毛人とも子被

一 紅毛人とも子被と紅毛人とも子被  
上陸後 紅毛人とも子被と紅毛人とも子被  
一 紅毛人とも子被と紅毛人とも子被

一 紅毛人とも子被と紅毛人とも子被  
紅毛人とも子被と紅毛人とも子被

一 紅毛人とも子被と紅毛人とも子被  
紅毛人とも子被と紅毛人とも子被

一 紅毛人とも子被と紅毛人とも子被  
紅毛人とも子被と紅毛人とも子被

一 紅毛人とも子被と紅毛人とも子被  
紅毛人とも子被と紅毛人とも子被











申しき事あり申し別は帆帆見隠色の泡色  
此母事ありありあり

一 大工エケレス西へ者と風歩はり候ありあり波あり  
ハ異西人と申し何れも此等の人教と下なる事七  
人といふあり

一 長崎六勿備道に金浦ともき妙上りく異列あり  
三日ぬ敷あ服より旅人波異船今あり候あり  
辰ありき人ありあり之よりありありあり

一 大村上総久保時十七日あり所へ麻糬よりありあり

此後より旅人ありありあり大浦あり  
亦も尚人ありありありありありあり  
よりありありありありありあり

此

よりありありありありありあり

ありあり

八月十七



又

涼夜水邊月色清  
一輪玉兔畫難成  
莫言遊客無詩伴  
弄影徘徊到五更

又

松間得月賞心長  
停杖朗吟詩一章  
更覺夜來涼氣異  
無邊素影夏天霜

又

涼風江上駐孤橈  
月出扁舟暑氣消  
沈醉忘歸君莫笑  
清光映浪二漂搖

又



